

～安定通水を目指して～

吸水槽スクリーンへのカワヒバリガイ付着調査を実施

令和元年7月30日（火）に霞ヶ浦揚水機場の吸水槽に設置されているスクリーンへのカワヒバリガイの付着状況調査を行いました。

吸水槽に設置されているスクリーンは、本来霞ヶ浦を浮遊している流木やゴミを揚水ポンプに吸い込まないように設置されている除塵設備ですが、近年カワヒバリガイの付着による通水障害が発生したことから、平成28年度にバーの部分銅製に改造を行い、設置しました。銅製品にはカワヒバリガイの付着を抑制する効果があります。

平成29年度から継続的に調査を行っており、今年度で3回目の調査となりましたが、銅製のバーの部分には付着はありませんでした（写真①）が、ステンレス製の枠の部分には付着して1年目と思われる小さなカワヒバリガイの付着が確認（写真②）されましたが、昨年と比較すると数自体は減っているように感じました。

なお、付着したカワヒバリガイは除去した後、スクリーンを再設置しました。（写真③及び④）

